

「観光税ってどんな税だろう。」夏休みに東京に行くことになり、家族でホテルを探していたら、宿泊税というあまり馴染みのない言葉が目にとまりました。気になって見てみると、東京ではホテルや旅館に泊まる際、宿泊費に応じて一人一泊あたり百円から二百円の宿泊税を支払うことになっています。宿泊税は宿泊料金に上乗せされるため、利用者はあまり気にせず支払うケースが多いようです。宿泊税、入域税、入湯税といった観光に関わる税金を総称して観光税と呼ぶそうです。

私は観光税に賛成です。なぜなら、その税収でオーバーツーリズムの対策ができるからです。コロナの制限が解除され観光業が復活し経済面ではプラスですが、その反面、一部の観光地に旅行者が集中して、交通混雑やマナー違反などの問題が生じ、地域生活が影響を受けています。持続可能な観光を目指すためには、観光地は旅行者の受け入れ体制やインフラ整備を充実させる必要があります。観光税はそのための貴重な財源となります。

私は小学生のころ大阪の北部に住んでいて、京都市内の混雑をよく目にしました。路線バスは観光客であふれ、地元の人が乗車できない状況でした。また、観光客から出される大量のごみは、ごみ箱からあふれて道路に散乱し、今でも深刻な問題です。高額なごみ処理に住民の税金を使うのではなく、旅行者自身が負担すべきだという声があがっています。観光税を旅行者から徴収することで、その税収を使って、混雑緩和やごみ問題の対策を講じることができるので、持続可能な観光を目指せると思います。

現時点で宿泊税を導入している自治体は東京や大阪や京都など九つですが、最近では地方でも注目を集めています。少子高齢化により全自治体の四割が消滅の可能性があります。そこでインバウンドを積極的に地方に誘客し、交流人口を増やすことで地域経済を活性化しようという動きがあります。しかし、地方には受け入れ体制が十分でない所が多く、そのまま多くの旅行者が訪れると自然環境や住民に負荷が生じてしまいます。各地域の実情に沿った策を講じるためにも、環境税などによる財源確保が必要になってきます。

私が住んでいる山形県は観光立国をめざしています。現時点で宿泊税は導入されていませんが、観光客誘致に向け受け入れ体制を充実させることができるなら、今後導入を検討してほしいと思います。中心地から離れると、宿泊先や交通インフラやトイレや外国語案内など整備が不十分なところがあります。最近では自然体験型旅行が外国人観光客にも人気だそうです。山形の美しい自然をアウトドア志向の旅行者に満喫してもらい、山形へのリピーターが増えてほしいと思います。地域と観光客の双方にとってプラスとなる持続可能な観光を実現できるよう、税金の財源確保や使い途について考えることが大切だと思います。